

フクイ ヒロユキ
福井 弘幸 准教授
経済学部 経済学科

■ 研究業績等

【著書】

- ・著書『ひろがる観光のフィールド[第8章 持続可能な開発目標(SDGs)と持続可能な観光(サステナブルツーリズム)、第9章 MICEについて、第10章 オリンピックについて]』晃洋書房(編集者):2020/02
- ・著書『これからの観光を考える[第1章 旅行業と観光、第7章 インバウンド(訪日外国人旅行)、第8章「着地型観光」と「日本版DMO」]』晃洋書房(編集者):2017/04

【論文】

- ・学術論文「PBLを取り入れたインターンシップの有効性についての考察 - 那智勝浦町におけるインターンシップを事例として -」第33回 日本観光研究学会 全国大会 学術論文集 日本観光研究学会 269-272 (単著):2018/12
- ・学術論文「東大阪市の製造業の産業活性化の取組みとJTBの地域交流事業による課題解決の一考察 - 旅行業の地域産業活性化の可能性 -」第29回 日本観光研究学会 全国大会 学術論文集 85-88 (単著):2014/12
- ・学術論文「訪日外国人旅行促進事業の課題と提言 - 国家観光ブランドの観点から -」第27回 日本観光研究学会 全国大会 学術論文集 日本観光研究学会 89-92 (単著):2012/12

【学会発表】

- ・『PBLを取り入れたインターンシップの有効性についての考察 - 那智勝浦町におけるインターンシップを事例として -』(第33回日本観光研究学会 全国大会):2018/12
- ・『東大阪市の製造業の産業活性化策の取組みとJTBの地域交流事業による課題解決の一考察 - 旅行業の地域産業活性化の可能性 -』(第29回日本観光研究学会 全国大会):2014/12
- ・『訪日旅行促進事業への提言 - 国家観光ブランドの観点から -』(第27回日本観光研究学会 全国大会):2012/12

キーワード

SDGs レガシー 共生 価値共創

対応可能なもの ■講演 ■研修 □研究相談(学術指導) □学術調査 ■コメンテーター □共同研究・受託研究

オリンピックとツーリズムの価値共創

研究の概要

オリンピックは、さまざまな領域で研究対象とされています。

マーケティングの領域では、スイスのJ.L. シャペル教授が、『Olympic marketing』でオリンピックシステム内で活動する組織のマーケティング戦略は、ステークホルダーの戦略に内在するマーケティングの概念の多様性と、オリンピックビジネスの価値共創を目的としたステークホルダー同士の交わり方に左右されるという事実を明らかにしました。

また、都市開発の領域では、国家プロジェクトとしてのオリンピック誘致による社会基盤づくりの研究が多くあります。

ツーリズムの領域では、1970年代に英国でスポーツツーリズムの研究が始まり、2001年に国際オリンピック委員会(IOC)と世界観光機関(UNWTO)によって、はじめてスポーツツーリズムに関する国際会議がパルセロナで開催された状況です。このためツーリズムの領域でのオリンピックの研究は多くありません。

研究の詳細

□研究・技術のプロセス □研究事例 ■研究成果 □使用用途・応用例 □今後の展開

関連する領域におけるこれまでの研究成果として以下のものがあります。

<著書(編著)>

『ひろがる観光のフィールド(第8章 持続可能な開発目標(SDGs)と持続可能な観光、第9章 MICEについて、第10章オリンピックについて)』晃洋書房、2020年02月。

『これからの観光を考える(第1章 旅行業と観光、第7章 インバウンド(訪日外国人旅行)、第8章「着地型観光」と「日本版DMO」)』晃洋書房、2017年04月。

<研究ノート(単著)>

『「着地型観光」の運営組織の生成についての一考察 - 東大阪の着地型観光を事例として -』京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集(11):111-128、2017年03月。

<研究ノート>

『「観光まちづくり」による温泉地再生の阻害要因の一考察 - 那智勝浦町を事例として -』京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集(12):157-180、2018年03月。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

・マーケットとして訪日外国人、観光目的としてスポーツ(主にオリンピック)を念頭におきながらも、目指すは環境に配慮した持続可能な観光。